

固体分散体の設計自由度を高める新たな技術を確認 — 日本薬剤学会 第41年会でポスター発表 —

第一工業製薬（本社：京都市南区、代表取締役社長：山路直貴）は、静岡県公立大学法人静岡県立大学（所在地：静岡市、学長：今井康之）との共同研究により、シヨ糖脂肪酸エステルが固体分散体の調製後に添加された場合でも、難溶性物質の溶出性を改善することを確認しました。本研究成果は、2026年6月4日に開催される日本薬剤学会 第41年会にてポスター発表予定です。

本技術は、医薬品開発における製剤設計の自由度向上に貢献することが期待されます。

医薬品開発では、難溶性物質の増加を背景に、溶出性や吸収性を改善する技術の重要性が高まっており、固体分散体はその有効な手法の一つです。

当社はこれまで、固体分散体にシヨ糖脂肪酸エステルを添加することで溶出性や経口吸収性が向上することを報告してきました。本研究では、難溶性モデル物質（クルクミン）を用い、HPMC-AS（水溶性高分子）を担体とした場合の添加方法の違いを評価しました。その結果、シヨ糖脂肪酸エステルは固体分散体の調製後に添加した場合でも、溶出性を改善することを確認しました。

本成果は、添加タイミングに依存しない新たな製剤設計の選択肢を提供するものです。当社のシヨ糖脂肪酸エステル「DK エステル」は複数の担体で有効性が確認されており、製剤開発の柔軟性向上に寄与します。

今後はさらなる検証を進め、医薬品業界の開発効率向上への貢献を目指します。

学会発表概要

1. 学会名：公益社団法人 日本薬剤学会 第41年会 <https://apstj41.mons.work/>
2. 日程：2026年6月3日（水）～5日（金）
3. 開催場所：京都市勧業館 みやこめっせ
4. 当社ポスター発表内容

【発表日時】2026年6月4日（木）10:15～11:15

【演題】HPMC-ASを担体とする非晶質固体分散体の性能に及ぼす
シヨ糖脂肪酸エステルの添加方法による影響

【発表者】京都中央研究所価値創造研究部新規材料グループ 岩木 徹



以上

【本リリースについてのお問い合わせ先】

第一工業製薬株式会社 管理本部 戦略統括部 広報 IR 部

TEL. 075-276-3027 E-mail: d-kouhou@dks-web.co.jp

コーポレートサイト <https://www.dks-web.co.jp>

〒601-8002 京都市南区東九条上殿田町 48 番地 2